広域図



事業の進め方

路線測量	道路の中心線、設計に必要な地形測量等を行います。
道路予備設計・地質調査	実測地形図に基づいて、道路の設計を行います。 また、設計に必要となる地質調査を行います。
設計説明	道路予備設計に基づき、設計計画について地元の方々と協議します。
用地幅杭設置	現地にて道路の必要幅を示す幅杭の設置を行います。
境界立会	官民境界および民民境界の現地立会をお願いします。
用地測量	用地の面積を出すための測量を行います。
詳細設計	工事を行うために詳細な道路設計を行います。
用地取得	地権者の方々に補償協議を行い、用地取得にご協力願います。
文化財調査	文化財の発掘調査を行います。
工事説明	工事の進め方、安全対策などについてご説明します。
工事着手	関係法令を遵守し、工事を行います。
完成・供用開始	完成後、供用を開始します。

道路緊急ダイヤル
24時間受付(無料)
全国共通電話番号 **#9910**

道路の異状を発見したらお知らせ下さい
落下物 / 落石 落木 / 雪崩 気象災害 / 路面の穴ぼこ / 道路施設の破損 など

※運転中の通話は道路交通法により禁止されています。安全な場所に停車してからのご連絡をお願いします。

国土交通省　近畿地方整備局
京都国道事務所
〒600-8234　京都市下京区西洞院通塩小路下る南不動町808
TEL. 075-351-3300(代)
ホームページアドレス　http://www.kkr.mlit.go.jp/kyoto

令和2年8月



9

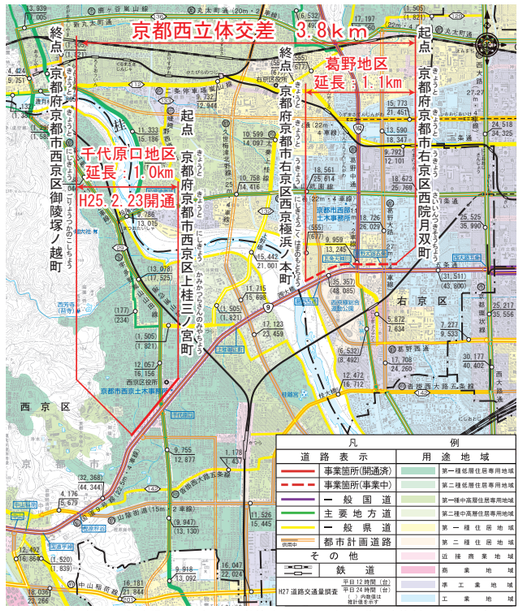
国道9号
京都西立体交差

国土交通省
近畿地方整備局
京都国道事務所

事業概要

国道９号は、京都府京都市を起点に山陰地方を横断し、山口県下関市に至る延長約640kmの幹線道路で、京都市と京都府北中部を連絡するとともに、京都市内においても東西交通の主軸として重要な役割を担っています。
京都西立体交差事業は、国道９号京都市西部において、交通混雑の著しい千代原口地区と葛野地区の、交通混雑の緩和、交通安全の確保を図るため立体交差事業を行っています。

位置図



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を複製したものである。
（承認番号　平30情複、第1329号）」

計画諸元

区間	【千代原口地区】 （起）京都府京都市西京区上桂三ノ宮町 （終）京都府京都市西京区御陵塚ノ越町 【葛野地区】 （起）京都府京都市右京区西院月双町 （終）京都府京都市右京区西京極浜ノ本町
道路延長	３．８ｋｍ
道路規格	第４種第１級
設計速度	６０ｋｍ/ｈ
車線数	４車線（立体部２車線／平面部２車線）

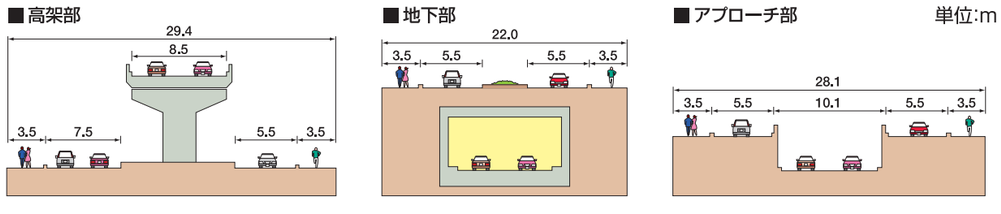
事業経緯

平成11年8月	都市計画決定
平成11年度	事業化
平成14年度	千代原口地区 工事着手
平成15年度	千代原口地区 用地着手
平成25年2月	千代原口地区 開通

平面図・縦断図（葛野地区）



断面図（葛野地区）



整備効果　交通混雑の緩和

京都西立体交差事業区間(葛野地区)の交通量は約4万7千台/日と依然として多く、交通混雑が起こっています。開通済みの千代原口地区は、交差点の立体交差化により交通容量が増え、交通混雑が緩和されています。未整備区間の葛野地区でも、交差点の立体交差化による交通混雑の緩和が期待されます。

千代原口地区

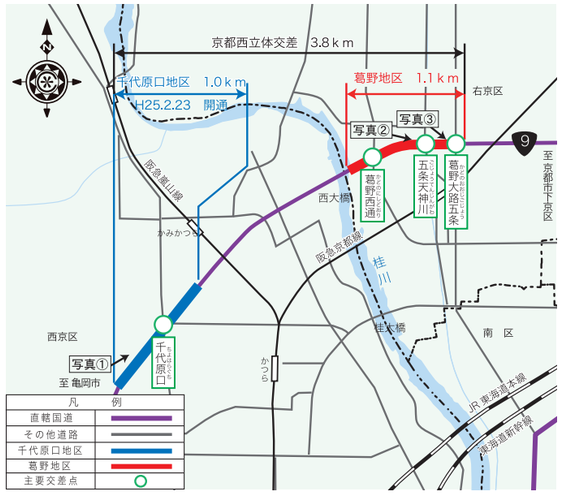


▲H24.6.1撮影

H25.2 開通後



▲H29.11.1撮影



葛野地区

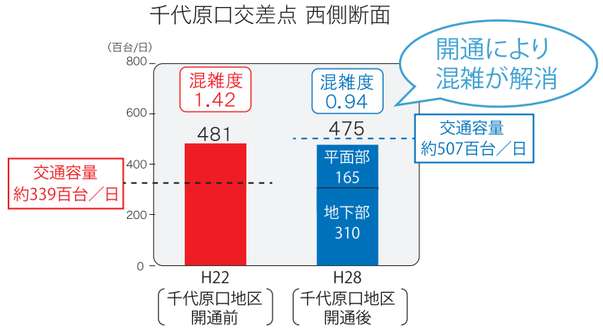


▲H29.11.1撮影



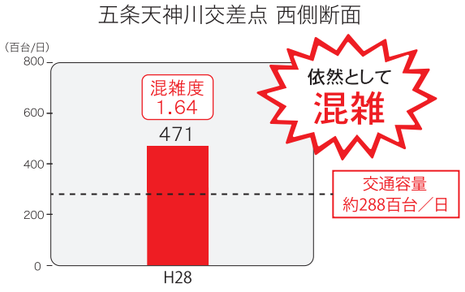
▲H29.11.1撮影

千代原口地区　交通量



【交通量出典】H22：道路交通量調査
H28：京都国道事務所調べ（平成28年11月10日（木））

葛野地区　交通量

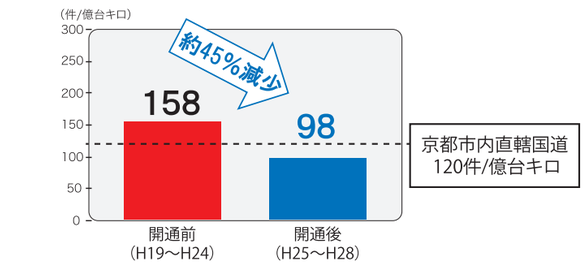


【交通容量出典】千代原口地区開通前：H22道路交通量調査
千代原口地区開通後：京都国道事務所調べ（平成28年11月10日（木））
葛野地区：H27道路交通量調査

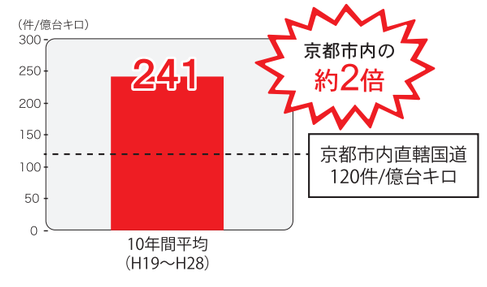
整備効果　交通安全の確保

葛野地区では、過去１０年間の死傷事故率が京都市内の直轄国道の約２倍になっています。
千代原口地区の死傷事故率は、開通前６年間と開通後４年間を比べると約４５％減少しています。
未整備区間の葛野地区でも交差点の立体交差化による、交通事故の減少が期待されます。

千代原口地区　死傷事故率



葛野地区　死傷事故率



【出典】：(財)交通事故総合分析センターによる交通事故統計データ（平成19年～平成28年）